【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第１区分
【発行日】令和3年5月13日(2021.5.13)

【公表番号】特表2020-519238(P2020-519238A)
【公表日】令和2年7月2日(2020.7.2)
【年通号数】公開・登録公報2020-026
【出願番号】特願2019-555824(P2019-555824)
【国際特許分類】
Ａ０１Ｍ　1/02　(2006.01)
Ａ０１Ｍ　23/00　(2006.01)
Ａ０１Ｍ　1/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ０１Ｍ　1/02　Ｚ
Ａ０１Ｍ　23/00　Ｚ
Ａ０１Ｍ　1/00　Ｚ

【手続補正書】
【提出日】令和3年4月1日(2021.4.1)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
デジタル化された総合的有害生物防除管理システムであって、
複数のデータソースを受信し、前記データソースからのデータを処理して、データベースを作成するよう構成されている、コンピュータおよび／またはクラウドベースのネットワークと、
データを送受信するよう構成されている少なくとも一つの、場所特有の有害生物防除プラットフォームであって、前記場所特有の基準は、少なくとも部分的に前記場所のリスク特性に基づいており、前記プラットフォームは、前記場所における有害生物防除のための１つまたは複数の仕組みを含み、前記１つまたは複数の仕組みは、随意で、（ｉ）有害生物防除用薬剤放出プロトコル、および／または、（ｉｉ）前記場所特有のデータを生成および受信する少なくとも１つのセンサを有する遠隔監視装置、を含む、有害生物防除プラットフォームと、
前記有害生物防除プラットフォームの外部のデータを収集する１つまたは複数の外部センサであって、前記外部データは、大気条件、有害生物の個体数、前記場所での人的交流、または前記場所に有害生物がいる可能性を予測することと相関性があるサードパーティデータ、のうち１つまたは複数を随意で含む、外部センサと、
を含み、
前記データベースは、入力された前記場所のリスク特性に基づいて、かつ、前記コンピュータが受信した生データと、前記場所の過去データと、随意で前記特定の場所と類似のリスク特性を持つ１つまたは複数の他の場所の過去データと、を利用して前記データベースにより成長した機械学習に基づいて、有害生物管理のための前記１つまたは複数の仕組みを配置するための推奨プロトコルを作成し、さらに、前記データベースは、新しいデータを収集し続けて、任意の所与の時刻において前記１つまたは複数の仕組みを配置するための推奨プロトコルがリアルタイムで更新されるように新しいデータを統合する、システム。

【請求項２】
場所の監視と、前記場所における有害生物の処置と、を同時に行う方法であって、
複数のデータソースを受信し、前記データソースからのデータを処理して、データベースを作成するよう構成されている、コンピュータおよび／またはクラウドベースのネットワークを与えることと、
前記場所に関連するリスク特性を含む場所特有の基準を入力して、前記場所における有害生物防除のための１つまたは複数の仕組みを含む場所特有のプラットフォームを作成することであって、前記１つまたは複数の仕組みは、随意で、（ｉ）有害生物防除用薬剤放出プロトコル、および／または、（ｉｉ）前記場所特有のデータを生成および受信する少なくとも１つのセンサを有する遠隔監視装置、を含む、プラットフォームを作成することと、
前記有害生物防除プラットフォームの外部のデータを収集する１つまたは複数の外部センサからデータを入力することであって、前記外部データは、大気条件、有害生物の個体数、前記場所での人的交流、または前記場所に有害生物がいる可能性を予測することと相関性があるサードパーティデータ、のうち１つまたは複数を随意で含む、データを入力することと、
を含み、
前記データベースは、入力された前記場所のリスク特性に基づいて、かつ、前記コンピュータが受信した生データと、前記場所の過去データと、随意で前記特定の場所と類似のリスク特性を持つ１つまたは複数の他の場所の過去データと、を利用して前記データベースにより成長した機械学習に基づいて、有害生物管理のための前記１つまたは複数の仕組みを配置するための推奨プロトコルを作成し、さらに、前記データベースは、新しいデータを収集し続けて、任意の所与の時刻において前記１つまたは複数の仕組みを配置するための推奨プロトコルがリアルタイムで更新されるように新しいデータを統合し、
随意で、能動的または受動的に制御されうる前記推奨プロトコルを検証して実施することと、
随意で、前記データベースを使って、処置プロトコルにおいて推奨される変更、特定された有害生物の１つまたは複数の種、および／または前記場所に対して選択された期間にわたって成功した処置、のうち１つまたは複数を特定することで、前記コンピュータおよび／またはクラウドネットワークにより報告書を作成することと、
を含む方法。
【請求項３】
リスク特性を有する場所に対して提案された有害生物処置計画を準備する方法であって、前記方法は、
前記場所の利用法およびリスク許容度に基づく、前記場所のリスク特性を入力することと、
前記場所の配置をコンピュータおよび／またはクラウドベースのネットワークへ入力することであって、前記配置は、食品調製領域と、食料貯蔵室領域と、避難所領域、リネン貯蔵室、濡れたおよび／または湿った領域、低地の水域、および有害生物が侵入または生息している可能性のある他の既知の領域、を随意で含む有害生物が侵入している可能性のある貯蔵室領域と、のうちの１つまたは複数を含むホットスポットを特定する、前記場所の配置を入力することと、
ユーザが前記コンピュータのデータ入力ポイントへパラメータを入力することで、前記場所の気候および物理的環境基準を決定することと、
前記ホットスポット、前記気候、および前記物理的環境基準を、データベースに収められている過去データと比較して、前記場所に対して提案される処置方式および計画を生成することと、
を含む方法。